

少女のわずかに浮かぶ胸の膨らみに
群がるオジサン達







結愛 十二歳
小学六年生





兄貴の娘、結愛は学校が
終わると毎日俺の家に
遊びに来る。
内向的で友達付き合いも
苦手な感じで大人しい。



しかも兄貴の娘なのに、誰に似たのか
この辺りではトップクラスに可愛い。
ロリコン中年オジサンの憧れの
小学六年生である。
まあ、大人の女性に全く相手にされない
俺にとっても天使のような存在だ。

俺の望みも
聞いてくれて

「今日は短めの
スカートで来てね」
って言うと、ちゃんと
その恰好で来てくれる。

おじさん
遊びに
来たよお。

お帰り結愛、
今開けるから
待ってて。



タッ
タッ



……え？？
私まだ小学生
だよ？

まゃうっ

世の中のオジサンは
結愛のスラリとした
生足とか微妙に見て
膨らんだ胸を見て
興奮してるんだよ？

でも、結愛は無意識に
生足を出して
中年オジサンを誘って
たんだよ？

だって……
おじさんが
着てこいって
言うから……

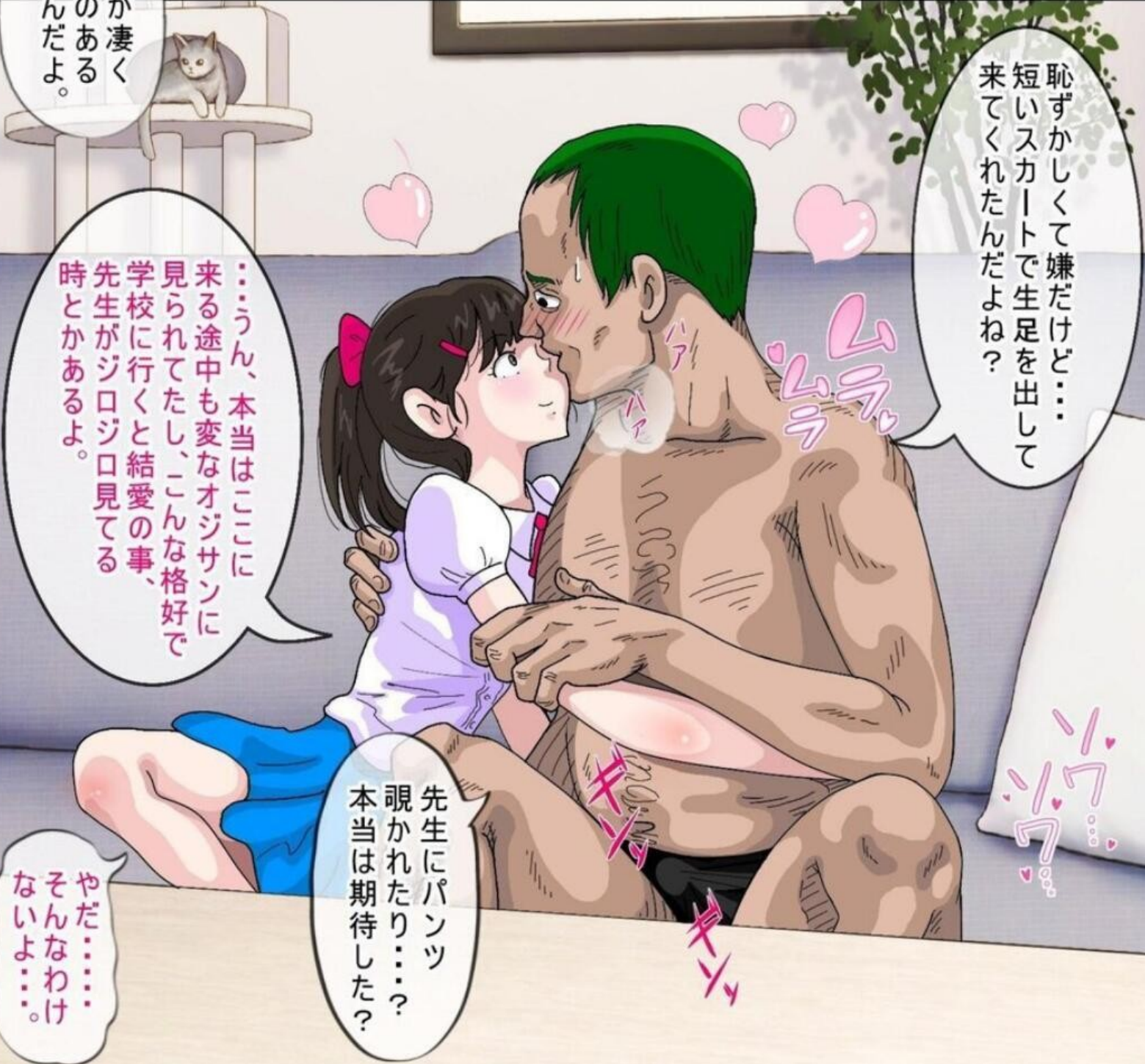
それが凄く
価値のある
事なんだよ。

恥ずかしくて嫌だけど……
短いスカートで生足を出して
来てくれたんだよね？

……うん、本当はここに
来る途中も変なオジサンに
見られてたし、こんな格好で
学校に行くと結愛の事、
先生がジロジロ見てる
時とかあるよ。

先生にパンツ
覗かれたり……？
本当は期待した？

やだ……
そんなわけ
ないよ……





ちゃんとは見えないとね...

ハア

んんん

ハア

うん。

ポクッ

うんうん。



アレ？ ブラ着けた？

うん、ママがもう着けないと駄目だって。

そっかあ。

むにゅ

ハア

むにゅ



あ

ハア

ハア

ぎゅ

むにゅ

そうかな？

やっぱりオッパイが成長してきたからじゃない？

全然太ってないと思うよ。でも、一応パンツの中も見ておこうね。

するる

ポクッ

ムラッ

真っすぐ立って。



……しう？

ハァ

ハァ

そうそう、
後ろの方も
見てみるね。



うん。

……でもさあ……

ハァ

結愛は見られた
かったんだよ。



ち、違うよあ……！

むにゅ

むにゅ

んう……

結愛は今日、短いスカートを履いてってライン見た時からホントは気付いてたでしょ？

あっ……



ハァ

こうやって生足を出して
周りから見られてるって……
分かってたでしょ？

……

違うじゃないよ……
学校でも先生に
生脚やパンツを
見られてるって
意識してたじゃん。



……っ

んう……

んう……



…もう…
おじさんの
意地悪う…
全部おじさんが
結愛に教えた事
だよおろ？

結愛も慣れた
男に見られるの。

んぐ…
あ…
んぐ…

んぐ…

あ…
んぐ…
んぐ…



だって…おじさんが言うから…

おじさんのせい？

んぐ…

んぐ…



ないよっ…

でも、先生や知らない
オジサンに毎回ちゃんと
パンツや生足を見せて
るよね？

んぐ…
んぐ…
んぐ…



…うん。
…結愛は…
エッチな小学生だね。

んぐ…
んぐ…
んぐ…

んぐ…



知らないオジサンや先生に
パンツを見せろって……

……え？



絶対……違うよ……

認めなよ……結愛は
自分のパンツや太ももを
見られたかったんだよ？



……結愛は、
……見せて
ないよ……

見せたよ。

……でも……
おじさんは
言っていないん
だよ？



自分で考えたん
だよな？

……うん……

足とパンツを
見られたの……



結愛なりに
考えたんだよね？
どうやって
パンツを……
見せようかって
自分で考えて。

あ、あれは……

あ……



かあ
全部認めて偉いね、結愛。じゃあ、ますおじさんのパンツを脱がせて…。

…うん。



ズルズル…



誰に見られたかった？

…先生や街に居る…オジサン達に見られたくて自分で…太腿とパンツを…見せたの…。

もっとエッチな姿を見て欲しいならどうすれば良い…？

…パンツを…脱いだり…とか？



びるうう

ズルズル

わっ

!



思いつき尻の穴を、
広げたり出来るん
だから(笑)



現役小学生のマンコを
息がかかる程間近で
見れて.....



...やあつ!
おじさん広げ
すぎだよお!



...ねえ、おじさん、
本当に先生とか他の
大人の人って結愛に
こう言う事したいと
思ってるの.....?

...そうだよ、結愛の
未成熟な胸の膨らみや
スラリとした生足を
見てオナニーとか
してるんだよ.....?

オナニー?



今日は結愛のお尻も開発してあげるね...

...最初は怖いけど... ゆっくりりとやるからね...

お尻... 駄目...



お尻気持ちいい？

...正直に言って、結愛...

...ん... ああ... お尻の穴... 気持ちいい... です...

本当は？

...やだ... 良くない...



やっ... やっ... やっ...



ムム
ググ
ググ



…ああ…普段は体操服に
わずかに浮かぶ胸の膨らみを
生で見れるんだから…
おじさん最高だよ…

あん♡



はー♡

あがあが

んやうう



…結愛の成長途中の
オッパイ凄く美味しいよ。

ん♡

ん♡



…結愛、お尻気持ち
良かった…？

…うん…

おじさん結愛のお尻
弄ってたらオチンチン
こんなになっちゃったよ、
触ってみて…

…うん、凄く
硬くなってる…



さてと、そろそろ、
こっちの方も…

ツンツ



…結愛…、今度は
後ろ向いておじさんの
オチンチン気持ち良く
して…。

…うん…。

…おじさんの
オチンチンもう
ギンギンだよ…。

ふいっ

はぁっ



…うう？

啜えて。

くいつ

わぁぁぁぁ



ゆ、結愛のもの
…舐めて
あげるね…。

んっ

女よお尻を
ふいっ♡♡♡

はぁっ♡♡♡

お尻♡♡♡



…んう…、
…結愛の…
オマンコ凄く
美味しいよ。

…あああ、うう…
肛門をヒクヒクさせ
ながら一生懸命舐めて
凄く可愛いよ…。



ああ…結愛の手は
柔らかくて気持ち
良いよ…。

…今度は握って…。



はぁっ
ふはぁっ！



ああ…良いよ…
由香…凄くエロくて
気持ち良いよ…。



…ああ。

はまっ♡

…ああ…
可愛いよ結愛。

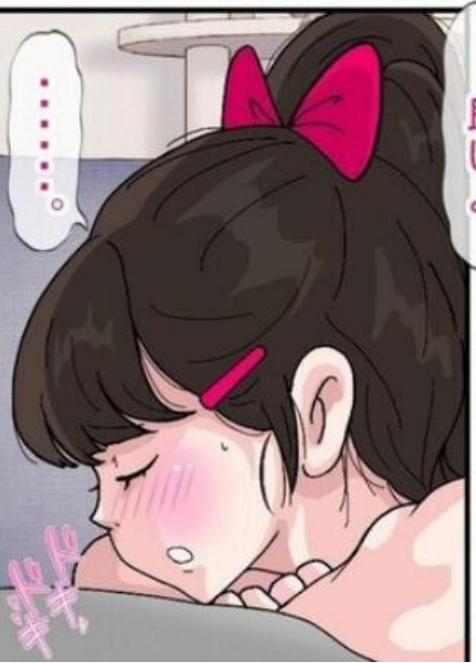
大好き
だよ…。



…おじさんもう…、
我慢できないよ…。



…お尻も
スベスベで
小さくて。



…良いよ。



…入れるよ、
結愛…。



あーっ
あーっ
あーっ

はあっ

ズ
ズ
ズ

行くよ、結愛！

はあっ



あああ
あああ
あああ
あああ
あああ

あ

…は、入ったよ、
結愛っ…!!



ズ
ズ
ズ
ズ
ズ

ズ
ズ
ズ
ズ
ズ

かはっ



どうだい
由香...?

気持ちい...



うん...
気持ちいい...

...
痛いけど...
気持ちいい!!

まだ痛いけど
気持ちいでしょ?



もっともっと...、
突いて欲しい？

んああっ！
...うん...

自分から言って。

めあわわわ
ハッハッハッ
!!!



もっと沢山
突いて欲しい
...です...!!

よし！



もっと...
突いて欲しい...です。



なら...もっと激しく
突いてあげるよ！



もっと、ハッキリ
言って結愛！



……ああ……、最高に
良かったよ結愛……。

……ああ……。

あ……

はあ……

ん……

ん……

ん……

ん……



……街のおじさんや
先生を誘惑して……、
遊ぼうね……。

はあ……

……え……？

あ……

ん……

ん……

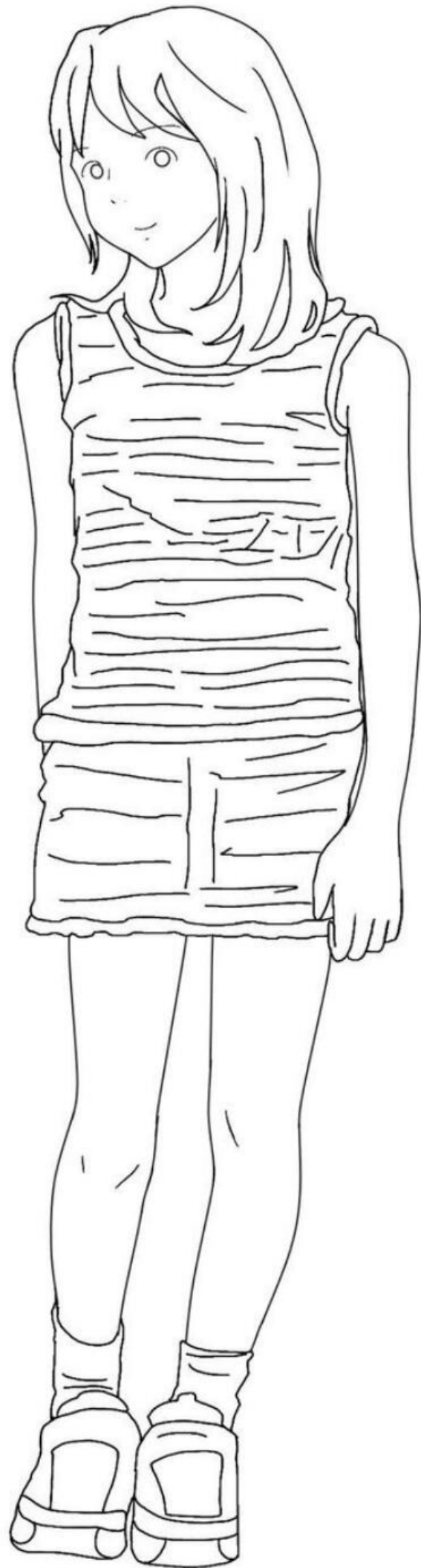
はあ……

……次は……
……外で……

おわり

触手・変な教室。





キーンコーン カーンコーン

さよならー、
じゃあねー！

さよならー、
また明日ねー！

…ああ、もう。
何で私だけ居残り
なんだろう…。

昼間の騒音がまるで嘘のように
静まり返った夕暮れに近い放課後の舎内。
真っすぐ伸びる廊下とそこに並ぶ教室には
人影は無く、時折聞こえてくるのは教師か
または居残った生徒が立てる音のみ。

誰も居ない教室で、
沙耶はつぶやいた……。
先週から担任の補佐として
新人の研修生に居残るように
言われたのである。

……ついてないなあ。
今日見たい放送あった
のになあ……。

沙耶の担任は風邪で休職中でその間、
代わりに研修生が沙耶の学級を受け持つ
事になったのである。

最近、沙耶はその先生に目を付けられている
かのように、毎日注意をされていた。



遅いなあ……。

私、研修の先生に
嫌われてるのか
なあ……。

はあ……。



ガラ

ビク

沙耶さん！

沙耶がポーっと
考え事をしている隙に、
いつの間にか
教育実習生の
担任が教壇の上に
立っていた。

あっ、先生！
まっずう！

ほら、ほら！
また、ポーっとして
いけませんよ。

沙耶は十二歳。
小学六年生の高学年。

ポーっとしてる所、
先生に見られちゃった。

世の中のロリ好き
には理想的な
身体付をしている。

成長途中の膨らみ
かけた胸。

スラリとした健康的な脚。

聞いてますか？

はい。

教育実習生は必要以上に、沙耶の生活態度について長々と注意をした。その間、まだ沙耶の身体を隅から隅済み舐め回すように観察していた……。

何故、居残りさせられたのか解ってるんですか？

じと

そうやって何時も弛んでるからですよ！

どうしてこの先生にこんな厳しいんだろう……？来た時からずっと私の事見てるし……。

じと

くどくど

すみません……。

勿論まだ自分の身体の成長なんか全く気にしてない沙耶はその視線に気が付いていない。

……すると、突然辺りの景色が暗くなり始め、女の顔がドロリと変化し崩れ始めた。

本当にいけない子ですね。

ドロ……

……貴方には別な教育が必要ですね……。

ビク

……えっ？

!!



私、何時もあなたの事を舐め回すように見てたのよ……。成長途中のプクッと膨らんだおっぱいや小さなお尻を……。

あ、お早う！

先生お早う
ございます。

廊下を通り過ぎる度に
どうやってそのおっぱいを
揉み回してやろうとか
お尻を舐め回したり、
オマンコや尻の穴まで
犯してやろうかって……。

女の一目を見つめると
沙耶の身体が硬直し、
身動きが出来なくなった。
無数の粘液に包まれた触手は
沙耶の身体に伸びて行き、
全身にまとわりついて
行った……。
何とか瞳は動かす事は
出来たので触手が伸びて
行く方向を目で追って
行くがその悍ましさに
沙耶は寒気を覚えた。

ふう……
ふう……

ウフフ、貴方には
この方法でタップリと
教育してあげるわ……

え、え？
か、身体が
動かない
よお……!!

……あああ……

ふう……
ふう……
ゾゾ

……ああ。



……足首

……太股。

やがで触手は、
沙耶の服の中に
潜り込み地肌を
這いまわった。



憧れの沙耶ちゃんの……

……おっぱい。

先生……もうこんな事やめてください！

想像以上の沙耶の味に目がらんらんと輝いている。

うふふ……凄く美味しい……！
そう言いながら顔を離すと、沙耶の口と女の口から唾液の糸が伸びる……

顎、腕、脚、髪の毛などから粘液が垂れ糸を引く……

更に無数の触手が服の中で小さな突起を探り摘まみ上げる。

ほら……もっと先生の目を見つめて……もっと気持ち良くしてあげる……

ずる
うぬ
ぬらあ

あらあ？……甘い声を出しちゃって気持ち良いの？
するる
するる
ち、ちが……！
……そんな事……！

沙耶は女の目を見つめるとまるで催眠術にかかったかの様にポーっとなり、完全に顔は上気し耳まで赤く染まり始めた。
あつ……
……だめ……
びくん
するる
うぬ
びくん
うぬ



ちゅうらうらうら

「ああ……おっぱい……
沙耶ちゃんのおっぱい……
美味しい……」

ちゅぱ
ちゅぱ

ぢゅるるるる

あっ!!

あっ!!



くちゅ
ちゅく
ぶちゅくちゅ
もオッパイ美味し
と吸わせてえ……!!

あご、腕、脚、髪の毛などから粘液が垂れ糸を引いていた。あまりの粘質に、垂れ下がりはするものの垂れ落ちようとしない。勝手に流れてくる涙も粘液か涙か解らないほど液にまみれていた。



ぐわ

いっ

ねとち

女の目は瞬きも惜しむように、
沙耶の秘所をじっくりと
見つめていた。

すると沙耶のパンツに触手が
巻き付き、一気にずり下され
隠すべき所が一気に晒される。
「……ああ、美味しそう……」



「気持ち良いの？
そんなに吐息を漏らして……」

ぬちゅ
ぬちゅ

それと同時に幾本もの触手が
沙耶のイチャパンツの上から
割れ目を又チ又チ愛撫でたり
ツツの中に滑り込んでいく。



くちゅ
くちゅ
あっ

触手は沙耶の意思を無視
するように入り口を
こね回した。



くちゅり

やがて無数の触手が、その聖域に
伸びた。



誰にも見せた事の無い
身体の部分の良いように
見られ、恥ずかしさの余り
顔が真っ赤になっていた。

くちゅ
ぶちゅ
ちゅく
ちゅぶ

あばく

痛みはない。痛みはないが。かわりにくすぐられる感覚が下腹部から沸き起こっていた。

ぶっぶちゅ
ちゅく

それは沙耶の身体に起こる初めての感覚で、声を堪えようとしても、予想のつかない感覚に半場無理やり艶かしい声をあげさせられていた。

どう？沙也加ちゃん、気持ちいでしょ……？
……オマンコ。

あはああ……

ちゅぶ
くちゅ

触手が肉壁に張り付く白い幕をツンツンと突く。

べるる
お

……脇の下も美味しい……。

美味……

にちやあ

あはあ

身体中を時間をかけ何度も舐められたおかげで沙耶の身体はねばつく粘液にまみれていた。

熱のこもった声をあげながら、触手から逃れようと自由のきかない華奢な身体をクネクネと動かす。可愛らしい小さな尻が、女の目を楽しませるかのようにプリプリと震える。

んっ……

ふぐ……う……

くちゅ
ぶちゅ
くちゅ



そろそろ、頂き
ましようか…。

うね うね
うね うね

目の前で小さく縮こまり、肩で
言ハアと息をする沙耶を見ながら
言った。



想像もつかないほどの
力で引っ張られる。

ゆら ゆら
うね

うね

べろ

べろ



ずぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞお

ふふふふふ…



ズググ

ズググズググ

両手首、両足首を
それぞれ別の方向に
引っ張られ、大の字
ポーズにさせられる。
そして、遂に沙耶の
純潔の証である
ものが貫かれた。
その瞬間、息を呑み、
身体を貫かれた。

!!

んぐ

沙耶のオマンコだけじゃなく、尻の穴にまで
細い触手が何本も侵入して行く。



あれー？ウンコの味が
するわよ？お尻ちゃんと
拭いたあ？

「ど…どうして…こんなには嫌なの…」
こんなに気持ち悪いのに…」
ポーンとした意識の中で
身体の奥からは、さざ波の
ような快樂が沸き起こってくる。



ピクッ
ピクッ
べろおおお
ピクッ
ピクッ

「気持ち良い
んでしょ？」



ねえ？
ねえ？
ねえ？
んあっ
あっ!!
んふう
ぬち
ぬち

規則的な触手の
動きに、変わって行く
沙耶の反応。
その声もだんだんと
官能を帯びたものと
なってくる。



じゅく
じゅく
じゅく
じゅく
はあん
んっ
ぬち
ぬち

女の触手には無数のツブツブが付いていた。

この：：ブツブツが良いんでしよう？

助け！お母さん：：！

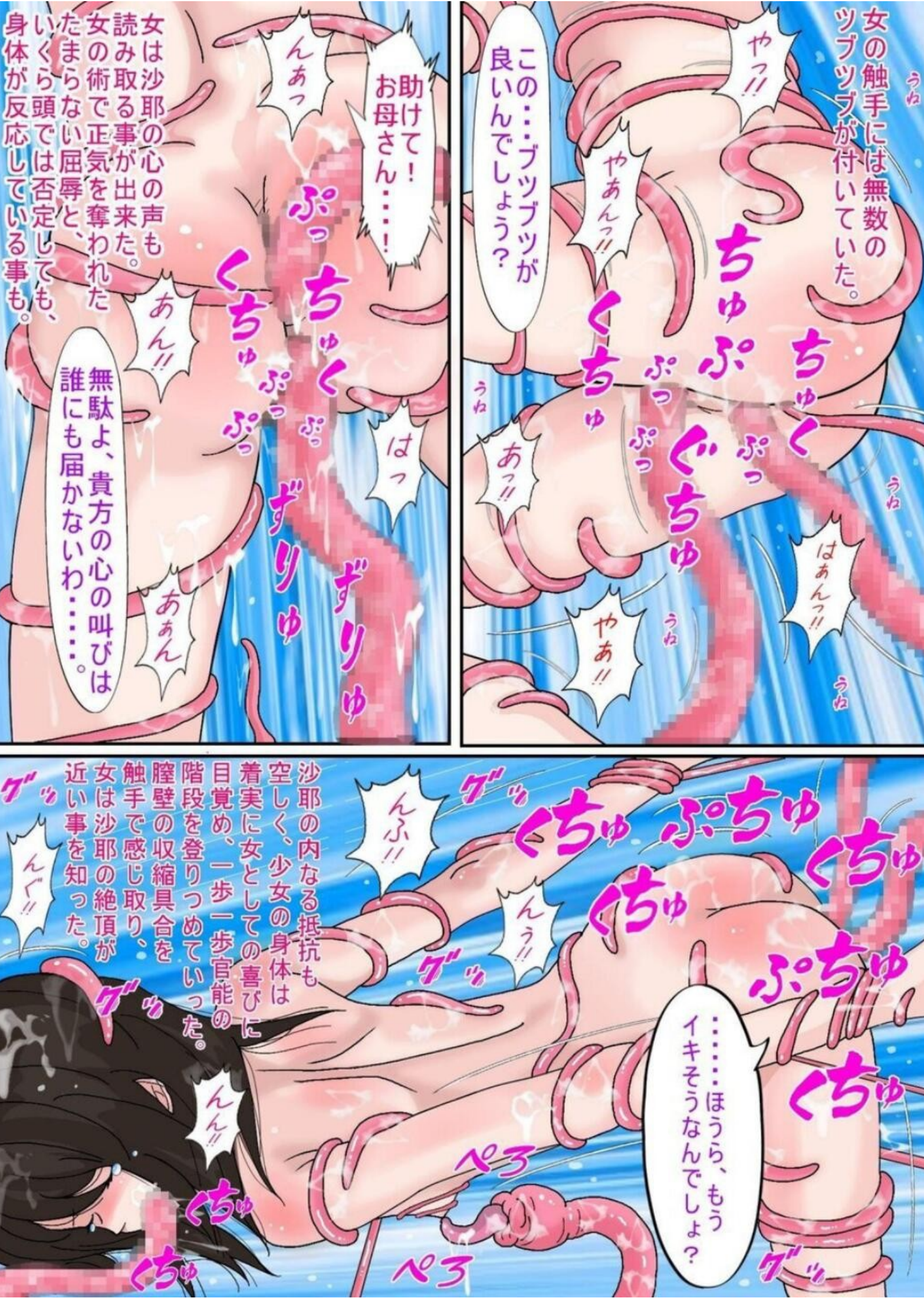
無駄よ、貴方の心の叫びは誰にも届かないわ……

あーん!! はあーん!! やあ!!

沙耶の内なる抵抗も空しく、少女の身体は着実に女としての喜びに目覚め、一歩一歩官能の階段を登りつめていった。

んふ!! んん!!

……ほうら、もうイキそうなんでしょ？





：最高の味
だったわ……。



絶頂に達し、小さな胸をせいぜいと動しながらぐったりと身体を時折、ピクン、ピクンと反応させていた。沙耶の全身は女から吐き出された大量の精子と粘液でドロドロになっただけで満足した笑みを浮かべやっとなつて床におろされた。

どのくらいの時間が経ったのであろうか。もう、すっかり教室の中は薄暗くなっていた。女は沙耶の焦点の定まらない瞳、乱れた呼吸を眺めなら、静まり返った教室で一人つぶやく……。「大丈夫よ、目が覚めたら今起きた事は記憶から消えて全て元通りになっているから。……でも先生、貴方を見てるとまたオチンチンがオツキしてきちゃうからその時はまた居残りしてもらおうかねウフフフフ……。」

おわり



忘れられない記憶

忘れられない記憶がある。
どんなに忘れようと思っても
決して消えることない記憶……。

あれから何年も経つのに
忘れることが出来ない……。



家族で買い物に行った
帰りに、自動車同士の
衝突事故にあい

ビーン!!

ビーン!!

ビーン!!



私は両親を
失った……。

私は近親者がなかったので
孤児院で暮らすことになった。

私は本当に孤独だった……。



私は両親を失ってから数年間ここで暮らした。楽しい事なんて全くなかった。早く大人になってこんな施設から抜け出したかったが、子供の私にはどうすることも出来ず規則正しい生活を繰り返す毎日だった。

恐らくここで勤めてた人たちはただ給料を貰う為、事務的に淡々と仕事をしていただけなのだ。温もりなど感じたことは一度もなかった。

ある日私は職員の人に呼ばれた……。

実は貴方を
養子にしたい
という方が
居るの……。

……養子？

大きな会社の社長で有無も言わず私はその養子にしたいと言った。引き取られることになった。

施設側としては引き取り手が現れず審査して合格すれば孤児などである。出て行ってもらった方がいいのである。

……この太った醜い男が私の義理父だった……

お父さんが愛しているのはお前だけだ……

私は事故の後遺症で足の神経を
圧迫してしまった。

義理父は有名な医者
を屋敷に呼んで
お金に糸目を付けず
足の治療をして
くれた。

奇跡的に私は命に
関わる怪我ではな
かった。

今では全力で走ったりする
のは難しかったが

日常生活は
問題なく過ごせた。



私はお屋敷のような家で娘として暮らすことになり、義理父に大事に育てられた

施設とは大違いで、夢のような暮らしだった。

お菓子なんかも施設ではたまに寄付されたものが配られたりする事があったが毎日食べる事は出来なかった。



それに比べて新しい家では毎日お菓子どころか豪華な料理を食べることができた。



それどころか私の部屋まで義理父は与えてくれた。暖かい部屋、食事、もちろん学校も通わせてくれた。一般の家庭よりも生活基準が遥かに上だった。

……私はとても幸せだった……。運が良かったと思う……。私がある年齢に達するまでは……。





人の気配がする……
義理父さん……？



この家にも慣れ、
私がジュニアハイスクールに
上がる頃の事である。
部屋で居眠りをしている時、
それが起こった……



す……



聞き覚えのある
鼻息の音で
私は直ぐに解った……



義理父さん
何をして
いるの？
私は怖くて
寝たフリを
していた……



シンとした
部屋に荒い
鼻息だけが
聞こえる……

あの日以降、
義理父の行動は
エスカレートして
いった……。

ぬう……

はあ

勉強中かい？

はあ
はあ

ドキッ



なみっ!?

……えっ……!!
あっ……あ……え?
……

私が家の図書室で
読み物をしてしていると
いつの間に背後に立ち
黒光りした醜いモノを
私にこすりつけて来る時も
ありました……。



だから、私が義理父の言う事を聞くだけで

すう……

全てが丸く納まるなら、きつとその方が良いのだと感じていた。



私は義理父の求めに従うしかなかった。それに、私が言う事を聞く良い子であればあるほど、義理父は機嫌良く過ごしてくれられるのだ。

お前は私を裏切らないな……？



……私はジュニアハイスクールを卒業するまで数えきれないほど求めに応じた……。

その……歪んだ愛情に……。

ああ……愛おしいよ。

……。



はい。

……さあ……、お父さんにパンツを見せておくれ。



はあ
はあ
はあ

はあ
はあ

……さあお父さんに
裸を見せておくれ……

ムラッ
ムラッ

ムラッ
ムラッ

ピクッ

……



そして私が十二歳になった時に、
その日が来ました……

……



その時、私はハッキリと悟りました
義理父は私が十二歳に達するまで
優しい父親を演じ続けていた事を……

……はい。

そして義理父は
足のマッサージをするから
別の部屋に移動しようって
言ってきた。。。。。

屋敷の中にこんな地下に
通じる階段があったなんて
知らなかった。。。。
何処までも続く暗い階段。。。

私は地下牢屋の中に
連れられ中に入るように
言われた。
とても薄暗い場所で
部屋の隅に数台カメラが
取り付けられていた。
マッサージの様子を
主治医に見せる為だと
言っていた。





更に本格的な全身マッサージをすると言って、ベッドに横になるよう命じてきました。。。。。

.....

さあ、ベッドに横になって。



これも足が良くなる為にやる事だからね。

私が横になると、それに合わせてカメラも動く。。。。。

..はい。



続きを始めるよ。

はい。

ここは地下室なので義理父の興奮した息使いがより一層響いて聞こえた……。

……義理父の臭い息が私の背中にかかる……。

初めは肩から揉み始め、やがて手は徐々の方向に行くと……。

芋虫の様な指は脇の下へ移動し、時々膨らみ始めた乳房に触れる……。



ゴツゴツして手は足の先から
ふくらはぎに移動し。

フゥ



太腿から
お尻……



義理父は私の幼い身体を
何時間もゆっくり撫で続けた。

最初は気持ちが悪くて
吐きそうだった。

ポ
フッ



私は段々と
頭の後ろが
痺れてきた……

ふっ

あ

ん



気が付くと義理父は
私の小さなお尻を
揉みまくっていた。

むに

ハ

ざ

ん

ハ



再び両手で
太腿を撫でまわし。

あ



その内側にまで
手を滑り込ませて
来た。

ぬち

ん

ハ

義理父に身体中を弄られ
私はもうウタウタになっていた。

そして、強引に足を広げ
私の大事なところにも
触れてきた……。







気持ち
良いかい？

ゆっくり
ゆっくり
気持ち良
なって行
感じ、
義理父にも
気付かれて
いる。

あ...♡

ん...♡



義理父は指の腹を
上に向けて
オマンコの割れ目を
こねくりまわしてきた。

ちゅ
ちゅ
ちゅ

あ...♡

あ...♡



もう、義理父の
手の動きは、
さつきと全然
違っていた。

は、はい。

ん...♡

ん...♡



そして
義理父は
たっぱり
時間を
かけて
膨らませ
始めたら
胸を揉み
きた。

はあ♡

むにゅ
むにゅ

あ...♡

ん...♡

ん...♡

あ...♡

ん...♡



もみ
もみ

この形最高だ！

あ...♡



この年齢でしか
味わえない...
微妙な膨らみ。

むにゅ
むにゅ

あ...♡

ん...♡



私の言う事を聞いてたら何でも買ってあげるし幸せに暮らせるからね……。

……はい。



良い子だ。



お尻を上げて。



……ああ、綺麗だ。

さあ、私の方を
見て座ってごらん。

この男、有り余る大金にもものを言わせ、
普段から孤児院に寄付をしていたのだ。
そして自分好みの少女が見つかったと
手に入れ十二歳ぐらに育つまで
自分の娘として大事に育てているのだ。

あ……はい
義理父さま。

そしてその様子を
撮影し。

各界の金持ちに高額で
販売していたのだ。

……膨らみかけ
オツパイ……。

六十歳になる男が
子供の様に十二歳の
少女の乳房を吸う姿は
変態そのものである。

……ママァ……
オツパイ頂戴。

……
……

ああ……なんて綺麗で
可愛いオッパイなんだ……。

私の膨らみ始めた胸を見ながら、
義理父は嬉しそうに言った。
すると義理父は私の小さな乳首を
激しく吸って来た。

私は身体を抑えられ
ながら激しく未成熟な
胸と乳首を吸われ
舐められていた。

ムクムク
ムクムク





私にはオチンチンを背けた。見ないように顔を背けた。でも義理父は私の手を握りおちんちんを握らせた。

今度は私を気持ち良くしておくれ。

義理父は私の顔にオチンチンを近づけて来た。



あ？



私は義理父に逆らえないと感じていました。勃起したオチンチンを私は恐る恐る震えながら啜えると義理父の身体がビクッと震えた。

ぐほわり

ズボッ

先端からは透明な液がでていて私の唇に塗りたくって来た。又ル又ルして凄く臭かったのを覚えてる。

ぎゃう



私は無理やり、オチンチンを口内に押し込まれて息苦しさに耐えながら、頬張った。

むぐ……んん……

くちゅくちゅくちゅ

ああっ……良い！気持ちいいよ！

ぐわん

義理父は朝まで私のお腹や脇腹を舌先で舐めてきた。その後は腕や肩、脇の下や首筋までも…裸になった上半身を舐め回された。

貪るような激しいキスをされ、唇の間から舌をねじ込まれた。

キスをされた後、また全身を舐め回された。また、義理父の舌が全身を這いまわり小さな胸やお尻は唾液でベタベタになっていたと思う……。

あ……

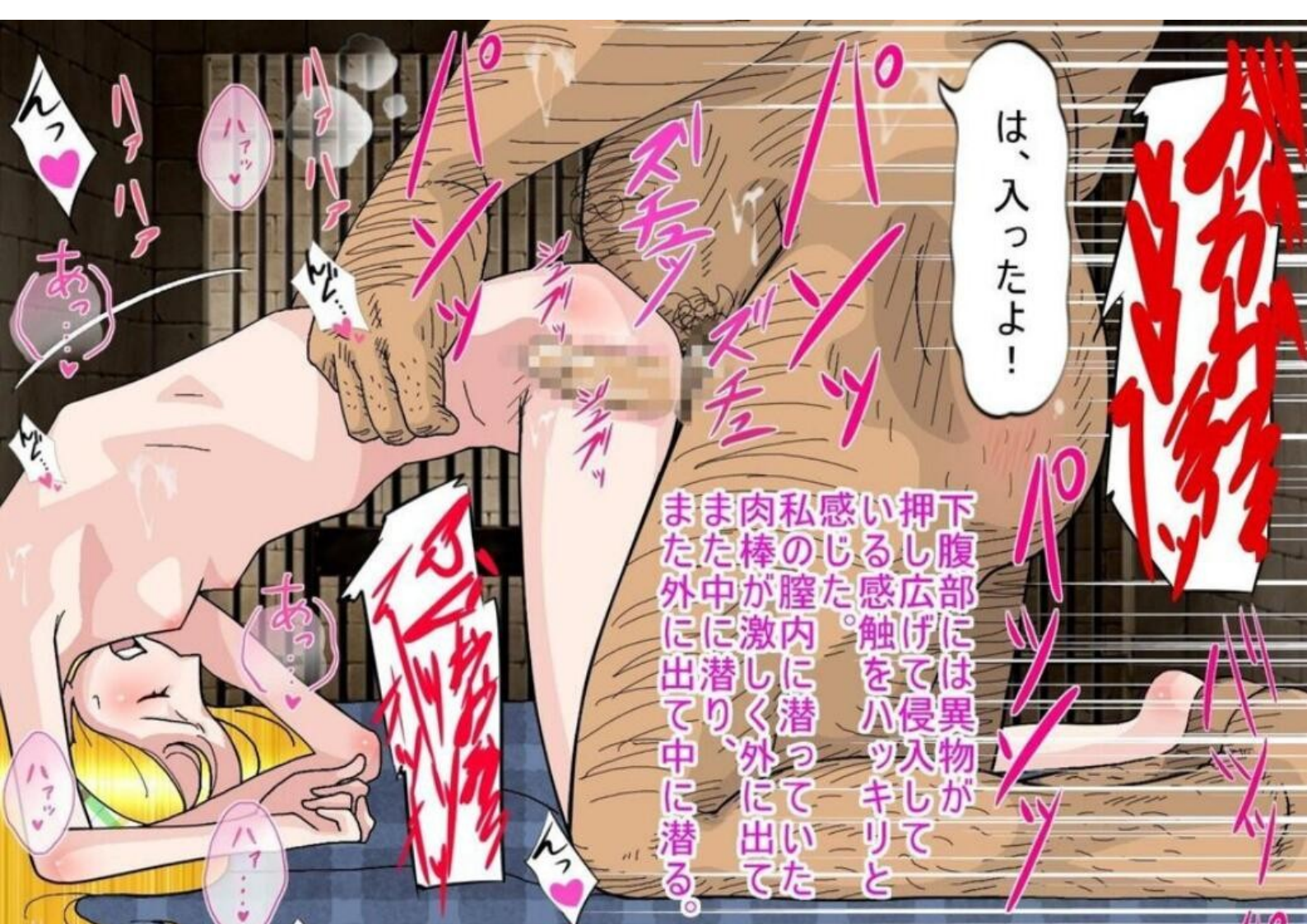
私は舌が絡まりあう気持ち悪さに耐えていたが狭い回の中では簡単に捕らえられネットリと絡まされた。唾液も容赦なく口内に入れられた。

よい、入れる

義理父は肉棒をにすり付けながら押し込んできた。

ニユルっていうか、ズブっていうか、そんな感じ。膣内に潜って





は、入ったよ!

あんなに気持ちいい

下腹部には異物が押し広げられてハッキリと感じる。触るハッキリと私棒が潜り出ていた。また外に出て中に潜る。



義理父は肉棒の入れを出し入れを続けた。壁が私理父の肉棒を締めて付けて気持ちよさそうにしていた。



身体を愛撫される時は、次第に自分の意志が反応するように関係なく身体が反応するようになつてたけど、まだまだ、未発達の腔内に肉棒が潜り込まれるのを感じた。ただ痛みと異物感だけしか

あんなに気持ちいい

私はうつ伏せの状態、
後ろから激しくアソコを
突かれまくった。
背中もべ回べ回舐められ
義理父の舌先が背中を
這いまわり物凄く
気持ち悪くて、
何度も何度も
ビクッビクッっと反応して
しまった。

ああ…！！
気持ちいよ！

あんなわわわ
うんっ！！
あんなわわわ
うんっ！！





再び義理父は熱くて
大きなモノが私の小さな
アソコの肉壁を押し広げて、
肉棒の先端が
中に潜って来た。

一体どのくらい全身を
愛撫され弄ばれて
いたのか...
時間など見る
余裕もなかった。

...やああ!



もう少し
だからね!





義理父は腰をビクッビクッと震わせながら、精液を最後の一滴まで私の膣内に放出した……。

……最高だったよ
これからも毎日
マッサージして
あげるからね……。

……ああ……。

私は十五歳になるまで
義理父に何度も身体を求められ
こうやって性的虐待を受けていた……。



私は同級生の
彼氏ができた。



彼はとても優しく
何でも話を聞いて
くれた。



勇気を振り絞って義理父との関係も
彼に話した……。
彼は信じられない様子で話を聞いていたが
私が苦しんでいる事を親身になって
聞いてくれた。
そして私は
卒業と同時に
彼と駆け落ちを
した。

義理父が私を
探さない自信が
あった。
ある年齢を
過ぎた私には興味がない。
あの男は生粋の回リコンなのだから。

おわり



友達のおじさんにしイプされた話。



初めてレイプされた時の事について
ここで初めて話したいと思います。



私は中学校に上がる手前の時に
友達のお父さんにレイプされました。



それは、突然の
出来事でした……。



あれは私が小学校六年を
卒業する手前の
事でした。



友達とは家族ぐるみ
でとても仲が良くて、
家族同士で遊びに
出かけたり、
お互いの家に泊まったり
とかもしていました。



お世話になります。



だからある日、友達の
お父さんから私の自宅に
直接。「今日泊りに来たら？」
と電話がありました。
母親も警戒
することなく
私が友達の家に
泊りに行くことを
許してくれました。



行ってきます。

友達のお父さんは、
私の制服姿が見たいと
言うので真新しい
セーラ服で友達の家
に向かいました。



私は友達の家に着いたら
この間途中まで一緒に
ゲームをした続きをやりたいなあ、
とかそんな事ばかり考えていました。



そんな何気ない普通の事を
考えながら電車で揺られて
いました。

タタッ
タタッ
タタッ

タタッ
タタッ

タタッ
タタッ



……だから、あんな怖くて、
恥ずかしい出来事が起こるなんて
思ってもいませんでした……。





こんにちはわ。

いっしょにしゃい。



さあ、入って入って。
エアコン効いてるから
中は涼しいよ。

その日はまだ四月前だったのでよく覚えていました。



お邪魔します。

よく来てくれたね!

家に入ると、
おじさんが笑顔で
迎えてくれました。



おじさんに促されて私は玄関の中に入りました。



サンダルを脱いで廊下を裸足でペタペタと歩き、リビングに入りました。おじさんは玄関の鍵を閉めて、私の後ろを歩いていました。

ソファアーに座って。ジュースをあげるからね。

おじさんは嬉しそうにキッチンの冷蔵庫を開けながら言いました。



わあ、涼しい〜！

ポフ



電車に乗ってから
家まで少し歩くから
疲れたでしょ？

大丈夫だよ。



今ジュース
持っていくね。

ギラン!!

おまたせ。



ん〜、でも
足ちよっと疲れた
かも。

喉渴いた
でしょ？

うん。



お婆ちゃんの家にお泊りに行ってね。

あっ、二人は明日まで居ないんだよ。



アキちゃんとお婆さんはいないの？

私はソファに座りながら、友達（アキちゃん）とお婆さんの二人が居ないことに気づいて聞いた。



ごめんね。言ってなかったかな？

当然二人も居ると思って泊まりに来たので、私はびっくりしました。



おじさんはオレんジユースを渡しながら私に言いました。

え……そうなんだ……



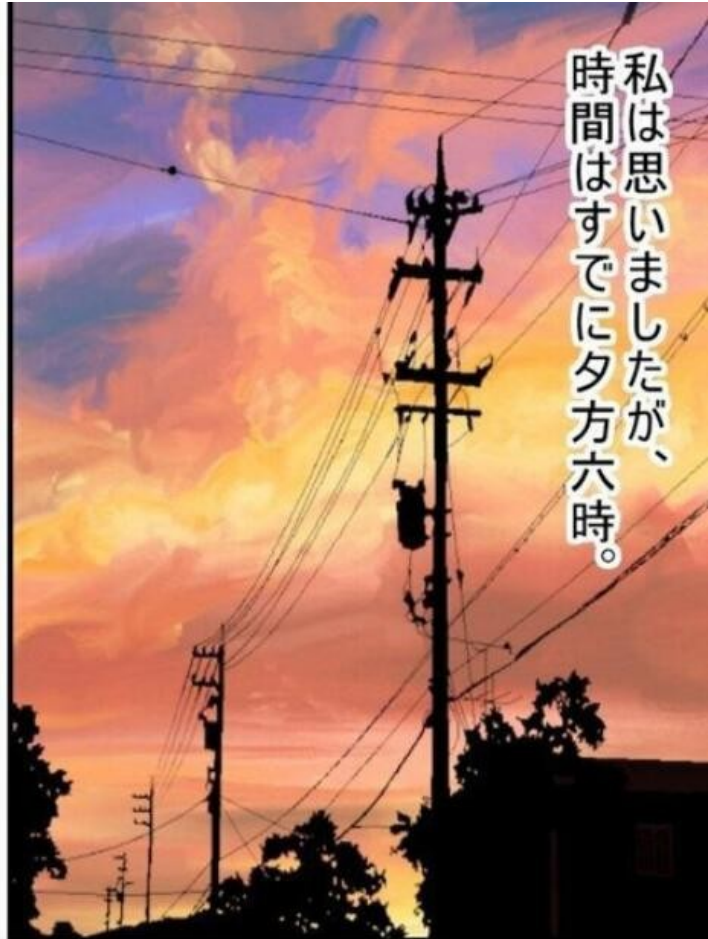
おじさんは私の隣に座って言いました。

家におじさん一人で寂しかったから、由香ちゃんを呼んだんだ。



……帰ろうかな……。

私は思いましたが、
時間はすでに夕方六時。



アキちゃんのご家族に
宜しくね。

うん♪

それに母親が
お泊りの準備を
わざわざして見送って
くれたこともあり、
帰るに帰りづらい状況でした。

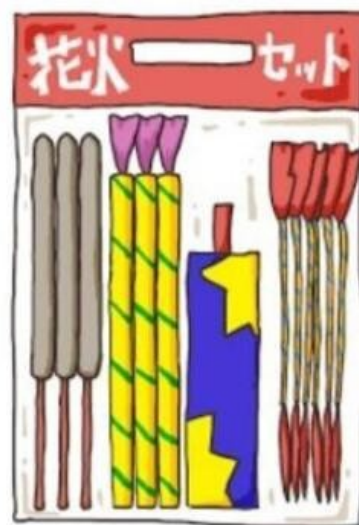
行って
らっしゃい。



家族ぐるみで仲が良くて、おじさんとも
もちろん仲良しだったので、

うん…
いいよ！

と、結局泊まることにしました。
おじさんが相手だったし、
私は小学六年の子供だったから、
全く警戒もしてなかったですね。



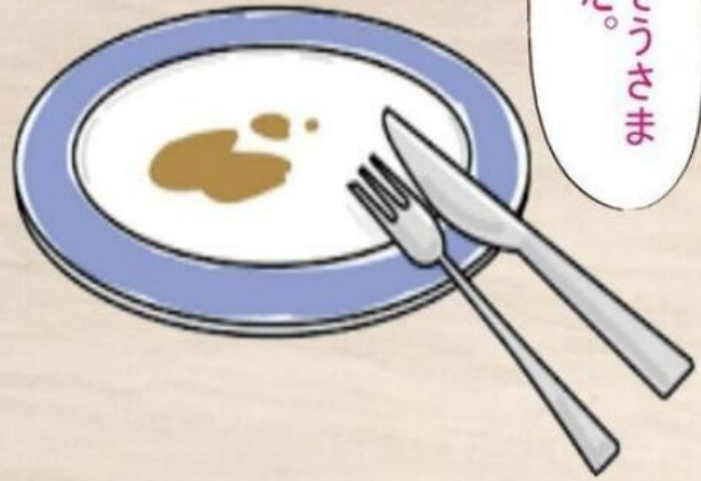
おじさんはソファアの隣に
置いてあった買い物袋から
花火を取り出して言いました。

たまには、おじさんと
二人で楽しいこと
沢山しようよ。

花火も買って
来たし。



ごちそうさま
でした。



友達の家で
おじさんと二人きり……。



この後のことは私は全く
想像すらしてませんでした。

晩御飯を食べた後、おじさんと
私はリビングのソファアームに座って
テレビを観ていました。
私も二人きりだと言う事を
特に警戒や意識をすることなく、
おじさんと会話をしながら
テレビを観て
いました。

由香ちゃん呼んで
良かったよ。

一人で寂しくテレビを
観るなんて我慢
出来なかったから(笑)

アハハ

おじさんは嬉しそうに私のすぐ隣に
近づきながら言いました。

おじさんも
良かったよ。

午前中に仕事があつて
行けなかったよ。

確かに夜一人
だと寂しいよね。

頭を撫でたり、
肩を軽く抱き寄せ
たり程度のは、
スキンシップは
軽くあつたから

あ

私も特に
気にしてませんでした。

でしょ？
由香ちゃんに
来てもらえて
嬉しいな。



ソファの上に座ったまま、私はおじさんに背を向けてソファの横の床に置いてあった花火の袋を除き込みました。



ねえ、おじさん。花火まだやらないの？



ソファの上から床に置いてある買い物を除き込み形だったから、

私はおじさんに背を向けて、更にお尻も向けていたような形になっていました。

花火しようよおろ……。



……由香ちゃん。



私は花火の入った袋をゴソゴソと触りながら言いました。



私が振り返るとすぐ真後ろにおじさんが居て、そのままソファアールに押し倒されてしまいました。

ドガッ



由香ちゃん、大好きだよ!

私はおじさんがふざけちゃれ合うように私を押し倒した。たどと思うていました。

もおり、やめてよお。



ごめんね、由香ちゃん……
おじさん……
もう我慢出来ないよ

この時、子供ながらおじさんが普通じゃないと気付きました。

ズイッ

えっ……、何が……？

と私が言いかけた時、おじさんは私に強く覆い被さり、首筋を舐めてきたのです。



私は何が起こったのか、理解出来ませんでした。いきなりおじさんが覆い被さってきて、身動きできない私の首筋を舐め回してきたのです。更に首筋から耳辺りまで唇と舌先で舐められました。

やっ……!!
な、なに!?



やめてよおじさん! どうしたの?

舌で私の耳の穴を舐められ、気持ち悪さで身体がゾワゾワと反応してしまいました。

やいや!



好きだよ! 由香ちゃん!

両手でおじさんの身体を
バシバシ叩いたり。



両足を
バタバタ
させて激しく
抵抗を
しました。が、
小学六年の
小柄の
子供が



大人の
力に勝て
ませんでした。

首筋から耳、耳の穴
何度が唇も舐められ
ました。



おじさんは舌を
私の口の中に入れて
こようとしました。が
必死で抵抗しました。



おじさんの手は
いつの間にか
服の上から
私の胸に触れて
いました。



痛止痛
いめい
よて！！

まだ胸はわずかに膨らみかけの
ぺたんこの胸を



無理矢理強引に
揉まれました。





何度も唇を
しつこく
舐められ
ました。



顔中をおじさんの
臭い唾液で舐め回され



胸を揉まれて
叫びました
おじさんは
やめてくれ
ず



まだ新しいセーラ服が
おじさんの大きな手で
胸を揉まれるたびに
しわくちゃになって
行きました。

…由香ちゃんの
膨らみかけたオッパイを
揉みまくるのが夢だった
んだよ……



揉み始めました。



おじさんは再び
私のわだかまに
膨らんだ胸を



唇を重ねられて
声が出せない
状態でも私は
激しく抵抗
しました。



恐がらないで
大丈夫……

やめてよ……
なんで……

左右の頬を両手で押えられ、
顔を背ける事ができずに、
私は無理やりおじさんと
見つめ合う形になりました。



息苦しさと気持ち悪さで
回を少し開けてしまいました。
その瞬間おじさんは私の回内に
舌を入れてきました。



私はびっくりして回を必死に
閉じましたが、前歯や歯茎を
舌でねっとり舐められました。



おじさんに顔を押しつけられながら、
舌と唾液が絡み合う激しいキスを
無理矢理されて、私はシヨツクで
泣いてしまいました。
おじさんが唇を離すと、私は腕で
顔を覆い隠しながら涙を流して
泣いていました。



私のファーストキスは、
貪るような激しい大人の
キスでした。

狭い口の中では私の舌は
簡単に捕らえられ、ネットリと
絡まされてました。
唾液も容赦なく回内に
入れられました。



私が泣いていると、おじさんが
私のTシャツを下から捲り上げて
きました。
腕で顔を隠して泣いていたから、
おじさんの動きが見えず全く
反応できませんでした。

いやあー!!
やめてえ……!!

私は泣きながら捲り上げられたセーラー服を下ろそうとしました。

やあッ

でも、やっぱり大人の男性の力には敵いませんでした。

ピリツッ……と新しいセーラー服の破れる音が聞こえ、私は力を緩めてしまいました。

お母さん……助けて！

セーラー服を脱がされた私は下着のスポーツブラ、パンティー、ソックスだけしか身に付けていませんでした。

でも、おじさんは白い下着とソックス姿の私を見て凄く興奮していました。

やあ……

……良いね。

……もう、止めてよお。

怖いよ……おじさん。

あッあッあッ

しくしく

しくしく

あッあッ

ぷるぷる

ぷるぷる



：いやあ、
見ないでえ……

ああ……なんて
綺麗なオツパイ
なんだ……

露になった私の膨らみかけた
胸を見ながら、おじさんは
嬉しそうに言いました。

やあ



私は、スポーツブラも



パティーも
脱がされ



由香ちゃん!

私は涙を流して泣いていました。
するとおじさんが何の前触れもなく
いきなり覆い被さってきました。

ひっ!?

ギョッ



わずかに膨らみかけた乳房を形が変わるくらい狂ったように揉まれました。

痛いっ！



いやあ！！

由香ちゃんの膨らみかけオツパイ！

おじさんに覆い被されていたから逃げる事も出来ずに、私は身体を押し入れながら、激しく胸を揉まれました。



唾液で乳首を濡らしながら唇と舌で激しく貪るように響きましました。



まだ全くの未経験で未成熟な胸と乳首は激しく吸われても、気持ち良さは全くなくて、激しくすぐたさと痛みが小さな私の身体を襲いました。

やめてえ... 痛いっ！痛いっ！あ...あ...あ...！



オツパイをを激しくしゃぶられ吸われ、私は身体を仰げ反らせて抵抗しました。

はあ♡

おじさんは私のお腹や脇腹を舌先で舐めてきました。その後は腕や肩、脇の下や首筋までも。そして、私の下半身に移動してきました。

なんて綺麗で可愛いんだ……

やめてえ!!

おじさんはクンクンとアソコの匂いを嗅いだ後、舌先で縦筋を舐め初めました。

まだ毛の生えてない初潮前の未成熟な小さなアソコをまともに晒してしまいました。

やだ……!! ひっく……!!

又っっっ!!

私はアソコを舐められてビクッと反応しながら叫びました。反応したのはビックリしたからです。まさかそんな所を舐めるなんて思わなかったからです。

私は泣き叫びましたが、おじさんは止めてくれないわけでもなく、唾液で濡らしながらジュルジュル音を立てて舐めて吸っていました。

いやあ、舐めないで……!!

再び膨らみかけの胸を無理矢理揉まれながら、乳首を指で弄られ、摘まれ、こねられ、弾かれ……

むにむに

むにむに

んっ……!!

アソコを唾液でベトベトに舐めてから、やつと口を離しました。

大好きだよ、由香ちゃん……

痛いよお

はっっっ!!
回いっぱい胸を含み舌先で乳首を転がしてきました。

貪るような激しいキス……更にまた舌や唾液を絡まされました。



ああ……
由香ちゃん
の
体温を感じるよ。

そう言うとおじさんは
服と下着を脱いで
裸になり私に
覆い被さって
来ました。

裸で抱き合うと
気持ち良いね！

おじさんは私を強く
抱きしめてくれました。

……いやあ……
いやいやあ……

……愛してるよ
由香ちゃん……

私は声にならない声を上げました。
でも、口が開いてしまいました、また
舌を入れてしまいました。
おじさんは私の胸を揉んだり激しく
指で摘んで弄りながら、舌と唾液を
また絡めてきました。

と嬉しそうにおじさんは言っていました。
当時の私にはその意味が分からなかった
ですが……

……小さな乳首が
小さく勃ったね……

乳首を摘まれて私は痛みで
ビクツツと反応して
しまいました。
気持ち良さなんて
ありませんでしたが、
おじさんは……

乳首で反応
しちゃったね……

そして、おじさんは
私の両足を左右に
開いていきました。

ハ？



私は抵抗し続けていた為
体力も使い果たしていました...。
おじさんは再び私の両脚を掴み
今度はM字に開きました。



おじさんの息が割れ目に
吹きかかる度に身体が
ビクツツてなりました。

おじさんは鼻息を荒くして
割れ目の周りを舐めて



最初は舌先でゆっくり
舐めてたおじさん
ですが、次第にネットリ
舐めるようになり、
動きを速めて舐めたりも
してきました。

美味しいよ、
由香ちゃん...。
あつあつ



膝を立てて脚を開いて
股間を露にさせられ、
割れ目をじっくりと
おじさんに見られました。

いやあ...
見ないでえ...

おじさんは私の割れ目に
顔を近づけて息を吹きかけ
ながら嬉しそうに言いました。

ああ...
やっぱ凄く
綺麗なオマンコ
だね...

アソコを激しく舐められ、
太腿の付け根辺りも
舌先で舐められました。
その間も膨らみかけの
胸からおじさんは
手を離さず揉み続けて
いました。

…マンコ…
…マンコ…
由香ちゃん！

んぐんぐ

やだあ…
ああっ…
やめんっ…
やめてえ！



身体をシタバタと動かして、
舌先がアソコを刺激する度に
くすぐったさにビクツと反応
してしまいました。

にゅにゅ

可愛いね、小学生
だけど、ここに反応
するなんて…



気持ち良かった訳では
ありませんが、おじさんは
喜んでるよと言っていました。

さすかにお尻の穴を
舐められた時は抵抗
しましたが、やはり
力で勝つことは出来ず、
最後はお尻の穴も
激しく舐められて
しまいました。

ああ、由香ちゃんの
尻の穴美味しい…

ははあ♡



アソコとお尻の穴をネットリと
舐められ、どちらもおじさんの
垂夜でベトベトと濡れていました。



やあつ…

おじさんの醜くて熱くて
硬いオチンチンを
私は、無理矢理握らされ
ていました。

ああ…由香ちゃんの
手は柔らかくて
気持ち良いよ…。



むわあ

ムッ

そしておしさんは私の鼻先に醜い
オチンチンを近づけてきました。
とても臭くて、お父さんと違って
皮を被っていました。



私は息苦しさに耐え、
オチンチンを
頬張りました。

おがおが



ほら、口を開けて
オチンチンを啜え
て由香ちゃん！

ズボッ



良いよ、由香ちゃん、
凄くエロくて気持ち
良いよ…！！

ずるん



むぐう！
…ん！

おお！もっと
…奥まで！

おしさんは言いたが
私の頭をグイッと押し
強引にオチンチンを
口に押し込んでました。



由香ちゃん…、お風呂行こうね。

私は全裸のままお姫様抱っこされて、浴室へ連れて行かれました。



朝までまだ、時間あるからゆっくりHを覚えようね。

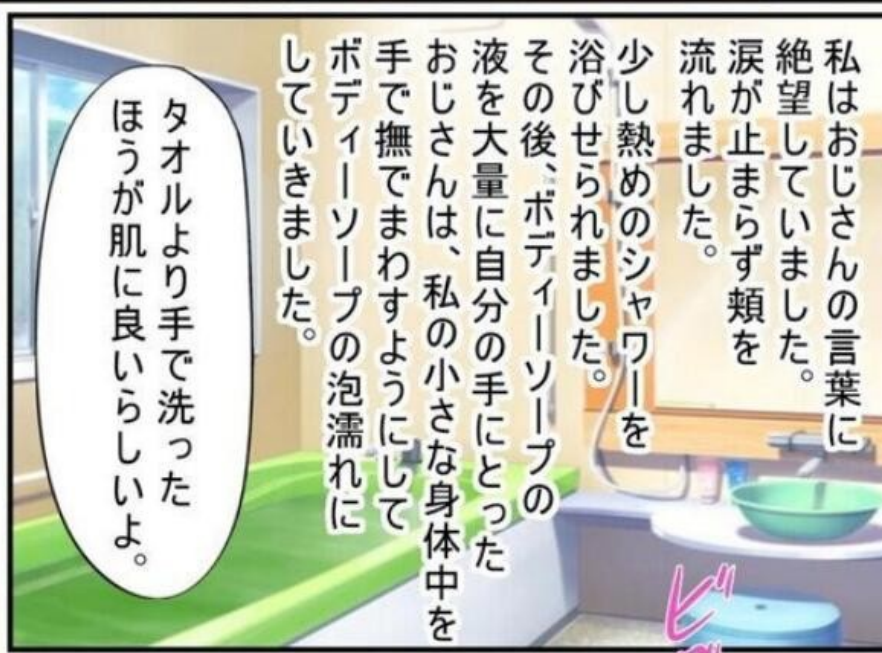
朝まで…？…うそ…？

ひよい



浴室内に熱めのシャワーが出っぱなしで、その熱気で段々室内は暑くなっていきました。

私は泡と汗に濡れてヌルヌルの状態で抱きしめられて、激しいマッサージをされていました。



タオルより手で洗ったほうが肌に良いらしいよ。

私はおじさんの言葉に絶望していました。涙が止まらず頬を流れました。少し熱めのシャワーを浴びせられました。その後、ボディソープの液を大量に自分の手にとったおじさんは、私の小さな身体中を手で撫でまわすようにしてボディソープの泡濡れにしていきました。



おじさんは身体を撫で回したり、胸を摘んで吸ったり、お尻を鷺掴みにして揉んだりしてきました。

そんな事でも良い事でした。どうでも良い事でした。



私は熱気と湿気の溜まった浴室内で汗を大量にかいて、ボツツとなっていきました。

次第に何も考えられなくなっていきました。

んっ…やだ…んっ！



二人とも全裸で服を脱ぎ出しました
意識がハッキリしてない私は、おじさんに
ゆっくりとソファアーに寝かされました。
もう泣き叫んだり身体をジタバタさせて
抵抗する力はありませんでした。

…入れるよ？
…大丈夫かな(笑)

えっ!?



痛いけど少し我慢して…。

いやっ…痛い！
痛いよお…
止めてえ！

ズグググ

私はおじさんが何をしようとして
しているのか、当時は理解
出来ませんでした。



おじさんはゆっくりと
自分の硬いものを私の
小さなアソコに当てました。

ズチズチ



かはっ!!

ズグググ



…な、なに？
…やだっ…!!



いやあ...!!
痛いよ!!!

はっ...
入ったよ...
由香...!!

ああ...!!
狭くて、気持ち
良い...!!

おじさんの熱くて
大きなモノが
私の小さなアソコの
肉壁を押し広げて
ズブツと言う感じで
私の中に潜りました。



私の膣内に潜っていた
肉棒が外に出てまた
中に潜り、また外に潜り...

ああ...!!
動かないで...!!

なるべく
痛くしない
からね!!



最高だよ! 由香!

でも、身体を愛撫される時は、
次第に自分の意志とは関係なく
身体が反応するようになっていきましたが、
まだ未発達の膣内に肉棒を挿入されるのは、
ただただ痛みと異物感しか感じませんでした。

ごめんね、由香
でも、気持ちいいよ!



痛いつ...んんっ
ああ...やあ!

と声を上げて
いました。

おじさんが容赦なく腰を
動かす度に私は、



…由香、最高に
気持ち良かったよ…。



…ああっ…。

おしさんか…肉棒を
引き抜くと、アソコから白い
ドロドロの液体が、垂れて
きたのを見ました…。



小学六年の私はこれが
セックスでこれが中出し
と言う事が全く理解して
いませんでした。

…もうやだ…、
やめて…。

こんな事してゴメンね。
でも、由香ちゃんの事が
大好きでたまらないんだ…。

もうやめられないよ。
朝までじっくり、
ゆっくりと由香ちゃんに
エッチを覚えて貰う
からね…。

…うっ、ひっく…、
酷いよ…、おじさん…。

おわり

疲れたニャン



八千ちゃん×211歳